

(7) 近畿



近畿地域では、景気は回復している。

- ・鉱工業生産は増加している。
- ・個人消費は緩やかに回復している。
- ・雇用情勢は厳しい状況だが、改善が続いている。

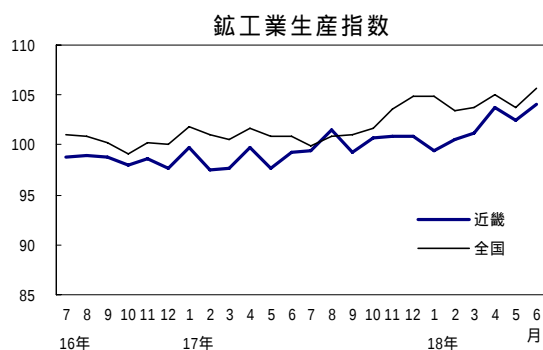
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
景況判断	緩やかに回復	回復	↑
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	↑
個人消費	持ち直している	緩やかに回復している	↑
住宅建設	大幅に増加	増加	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、海外向けのカスタムマシンやフラットパネル・ディスプレイ製造装置が好調なことから増加している。化学は、無水酢酸、酢酸、合成樹脂塗料などが好調だったことから増加している。電気機械は、海外向けのリチウムイオン蓄電池の減少やエアコンが不調だったことから減少している。食料品・たばこは、たばこ、ビール・発泡酒などに動きがあったことから増加している。電子部品・デバイス、携帯電話向けの固定コンデンサやパソコン向けのセラミックコンデンサが好調であったことから増加しており、6 四半期連続の増加となっている。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成 18 年 6 月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

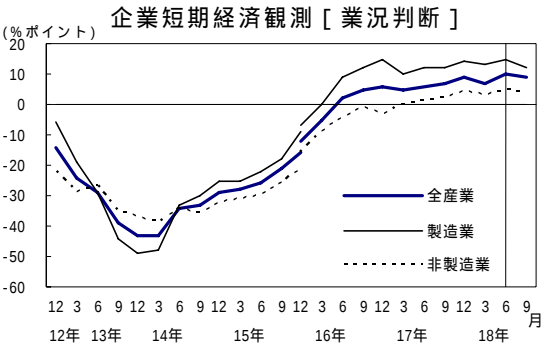
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	15.0	▲5.0	17.3	13.3	2.0
化学	12.8	▲1.8	3.3	0.5	▲3.1
電気機械	10.1	1.7	▲4.3	▲2.7	10.2
食料品・たばこ	8.1	0.6	1.7	4.0	▲9.1
電子部品・デバイス	7.9	3.4	2.6	▲2.4	▲8.9
鉱工業	100.0	▲0.4	3.0	2.1	▲1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

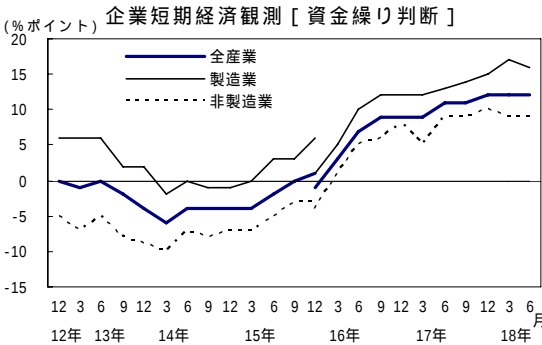
2. 4～6 月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

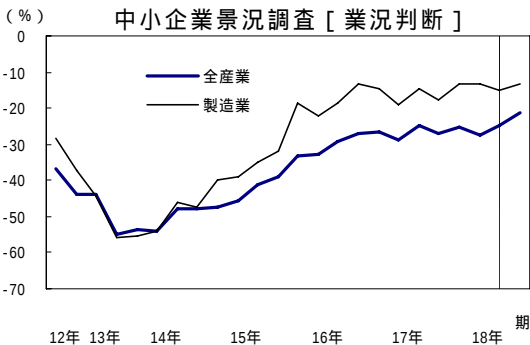
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]

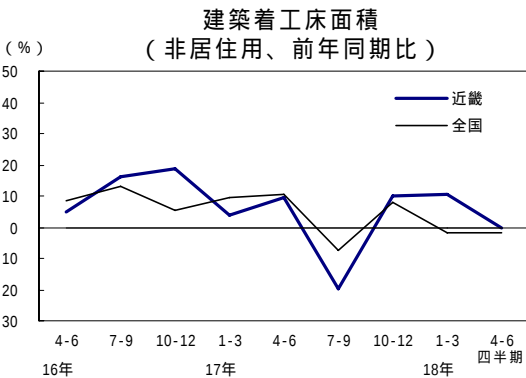
「得意先をみても、工夫をしている企業からは仕入が増えているものの、そうでない企業は仕入が 30%減少している。全体としては、販売価格が低下するなかで横ばいの推移となっている (繊維工業) 」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	17 年度実績	18 年度計画
全 産 業	8.3 (▲2.9)	11.8 (6.3)
製 造 業	9.5 (▲3.5)	17.7 (9.3)
非 製 造 業	7.3 (▲2.4)	6.9 (15.4)

(備考) () は前回 (3 月) 調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

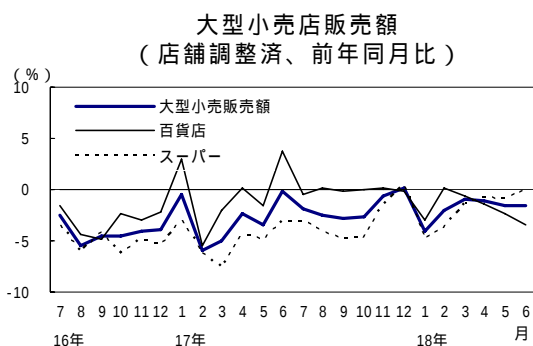
(1) 個人消費は緩やかに回復している

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、精肉・鮮魚などの飲食料品が好調だったが、気温が低かったことなどから春・初夏物の衣料品が振るわず前年を下回った。5月は、紳士向けのクールビズ関連商品が好調だったものの、天候不順により夏物の婦人服やUVケア化粧品などが振るわず前年を下回った。6月は、降雨量が多いなど天候不順により盛夏物を中心に婦人服が振るわなかったことや紳士服でもクールビズ商品が伸びなかったことなどから前年を下回った。また、昨年後半から続いている一部店舗の改装に伴う売場面積縮小の影響がみられる。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の7月の売上高は、前年同月比で4.2%減となっている。スーパーは、低温など天候不順により衣料品は振るわなかったものの、相場高により野菜単価が上昇したことや、豚肉・鶏肉などの精肉や総菜類も好調に推移したことから、主力の飲食料品がほぼ4年ぶりに前年を上回り、前年比のマイナス幅は縮小している。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

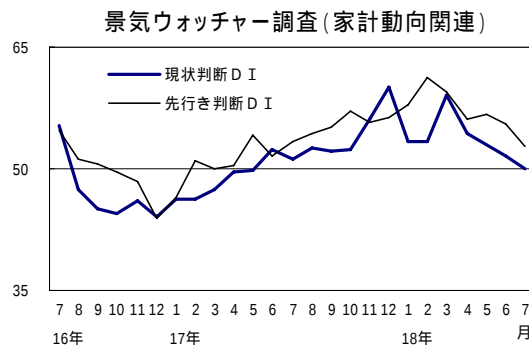
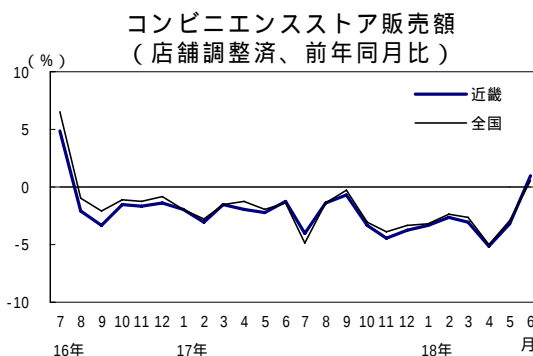
「記録的な雨により来客数は極端に減少している。また、たばこの増税では前月にまとめ買いがあった影響もあり、今月は売上が減少している。ただし、他店との差別化を図った改装効果が一部に見受けられる点については好材料である(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	▲2.3	▲1.0	▲2.5	▲1.4
百貨店	▲0.2	0.0	▲1.3	▲2.4
スーパー	▲4.0	▲1.8	▲3.4	▲0.6
コンビニ	▲2.1	▲3.8	▲3.0	▲2.4
景気ウォッチャー	52.0	56.2	55.3	53.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

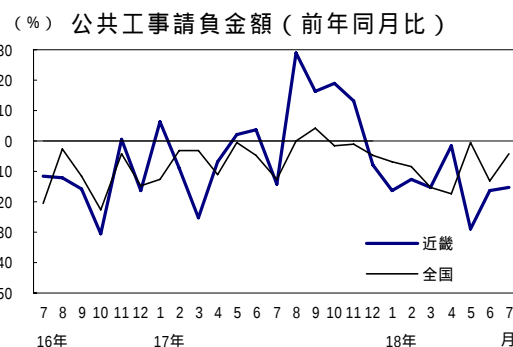
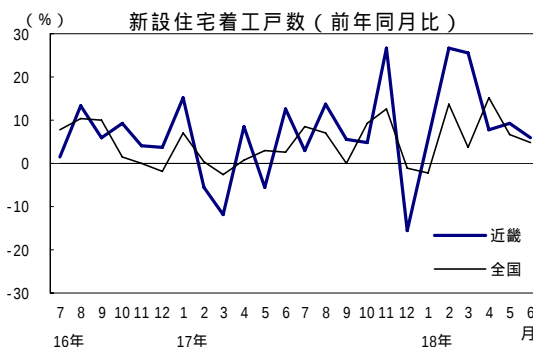
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

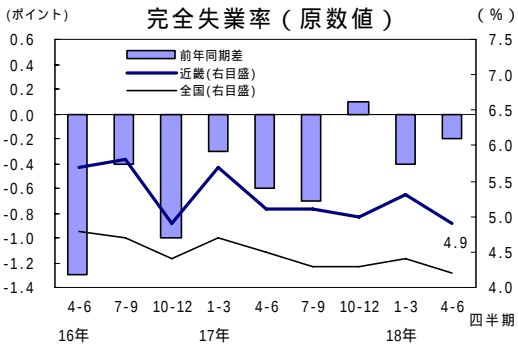
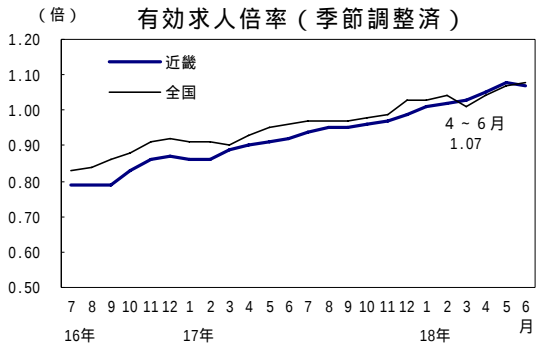
貸家と分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



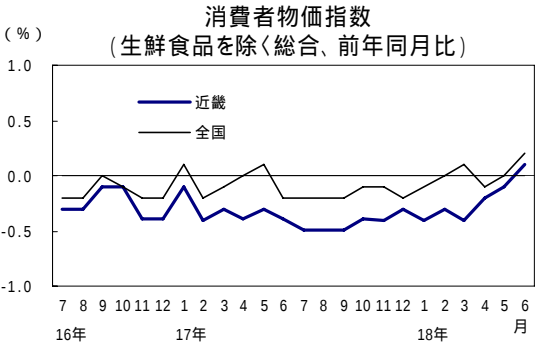
景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]
「7月に入って求人広告が増えてきた。新卒、転職フェアを開催したところ、来場者も多いなど、人の動きが活発になってきた (新聞社[求人広告])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	866	1,083	921	910	272
(前年比)	3.1	32.9	22.6	13.5	▲4.6
負債総額	3,598	3,194	3,586	1,891	426
(前年比)	▲5.2	▲47.9	▲42.0	▲53.7	▲51.0



- 景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- ・ インターネットのブロードバンド化が進み、動画などのリッチコンテンツへの需要が増え、インターネットによる情報コミュニティに対する需要も高まっている (通信会社)
- <先行き>
- ・ 今秋より、マンション業者によって高値で素地が取得された、いわゆる新価格のマンション供給が始まる (住宅販売会社)

